

令和2年度 基本施策評価シート

作成日 令和2年5月29日

基本施策	E3 犯罪のない地域づくりを進めます		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	犯罪被害にあうことなく、安全・安心に暮らしている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		127ページ ~ 128ページ	
基本施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子
関係課名	こどもみらい課		

基本施策の評価

Ac 目標を達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標が100%以上の目標達成率となったことから、「A」とする。
- ・個別施策の成果指標4つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会、暴力追放パレード及び防犯パネル展、市が行う地域防犯講座など、関係団体と連携した全市民的な暴力追放運動や防犯啓発活動により、防犯意識の向上が図られた。一方で、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会の実施方法が固定化しており、参加者の広がりが少ない。
- (2) 長崎県警察との連絡会議を開催したことにより、警察との情報共有や連絡強化が図られた。
- (3) 子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールが6,658回、情報交換会が688回実施され、地域における見守り活動が実践された。
- (4) 少年補導委員の活動回数に地域でばらつきがある。
- (5) 市内各地区の防犯協会では、パトロールや防犯啓発活動等が行われ、犯罪の未然防止につながっている。
- (6) 青色回転灯防犯パトロール活動団体については、隊員の高齢化等により解散する団体もあったが、防犯意識の高まりにより新たな団体が組織された。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)[暦年]	1,874件 (26年)	目標値	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
		実績値	1,554	1,431	1,251	1,230	
		達成率	102.9%	104.6%	110.6%	105.4%	

今後の取組方針

- (1) 防犯啓発活動の推進を図るため、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発及び青色回転灯防犯パトロールなどの地域における防犯活動の促進のための取組みを行い、市民の自主防犯意識を高め、また、警察や防犯協会などの諸団体との連携・情報交換を促進する。
- (2) 特殊詐欺等の新しい犯罪に対しては、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。
- (3) 地域団体や防犯団体、長崎県警察とのより一層の連携を図る。
- (4) 地域防犯活動の推進を図るため、子どもを守るネットワークによる見守り活動、少年補導委員による補導活動及び防犯パトロールなどの充実を図る。また、これらの活動について市民へ周知し理解を深め、活動への参加促進に努める。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Ac」については、所管評価のとおり。
- E3-2「自主防犯活動の支援」の取組概要について、自主防犯団体の担い手は青色回転灯防犯パトロール活動団体だけと認識してしまう場合も考えられるので、表現の仕方を検討した方が良いのではないかと。

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-1 防犯啓発活動を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民や事業者が	「自分の安全は、自分で守る」という自主防犯意識を高めている。	
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子

令和元年度 of 取組概要

- ①防犯意識の啓発
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会及び暴力追放パレードを開催し、市民約1,000人が参加した。
 - ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議や自主防犯団体等の活動を紹介する広報誌を作成し、周知を図った。
 - ・防犯パネル展を、市役所本館ロビー及び設置可能な地域センターで実施した。
 - ・地域防犯講座を10回開催し、特殊詐欺等の被害の未然防止について周知啓発を行った。
 - ・長崎市防犯協会連合会において、長崎市の防犯対策に長年協力いただいた個人・団体に対し、表彰を行った(4名、2団体)。
- ②防犯団体との連携強化
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議幹事会を開催し、市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等の事業者団体並びに警察との情報交換を行い、連携を図った。
 - ・各地区で行われる防犯関係のイベントや会議へ積極的に参加し連携強化を図るとともに、年末には長崎県警察との共催で、防犯と交通安全を訴えるパレードを開催し、防犯意識の高揚を図った。
 - ・「長崎県警察と長崎市との連絡会議」を開催し、施策の方向性について情報共有を図るとともに、それぞれの業務において抱えている具体的な課題について協議することで、長崎県警察とより一層の連携を図った。
- ③子ども安全情報の収集及び発信
- ・こどもみらい課で収集した情報をもとに、こどもみらい課と学校教育課(不審者情報等)又は健康教育課(サル等有害鳥獣情報等)において情報の内容について協議・分析し、関係課と連携して、関係機関・団体へ速やかに情報発信を行った。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	7,484人 (26年度)	↑ 目標値	7,559.0	7,711	7,788	7,866	7,945
		実績値	6,646.0	6,372	1,000	1,000	
		達成率	87.9%	82.6%	12.8%	12.7%	
【補助代替指数】 地域防犯講座への参加者数※1	322人 (29年度)	↑ 目標値			322	322	322
		実績値			275	228	
		達成率			85.4%	70.8%	

※1 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数については、啓発事業の見直しを行い、暴力追放啓発書写コンクール事業を廃止した結果、参加者数が大きく減少したため、比較検討ができない。よって、補助代替指標として、地域防犯講座への参加者数を記載した。参加者数の維持を図っていくという考えから、基準値の322人を目標値として設定している。

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会及び暴力追放パレードは、市民会議の116団体が参加・協力し、開催することで、長崎を暴力のない安全で安心なまちにしたいという想いやいのちの大切さを発信することができた。 ・防犯パネル展については、4月の暴力追放強調月間に市役所本館で開催したほか、10月の全国地域安全運動期間中には市役所本館及び17か所の地域センターで開催し、より多くの市民に啓発を図る機会を創出した。 	<p>様々な取組みにより、市民や事業者が啓発活動に触れる機会が増えたことで、自主防犯意識の向上につながった。</p>
<p>②防犯団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議幹事会の開催のほか、各地区で行われる防犯関係のイベントや会議などに参加するとともに、年末には長崎県警察との共催で、防犯と交通安全を訴えるパレードを開催し、地域団体や防犯団体との情報共有、防犯意識の醸成が図られた。 ・長崎市と長崎県警察の幹部職員による年に1回の協議の場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や防犯団体との連携が強化され、情報共有や機運醸成が図られたことにより、自主防犯意識の向上につながった。 ・警察との情報共有や連携強化が図られた。
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報67件、サル等有害鳥獣情報12件を発信し、注意喚起を行った。 	<p>防犯・安全意識の高揚に寄与できた。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会の実施方法が固定化しており、参加者の広がりが少ない。 	<p>継続的な市民運動として、さらに広げていく必要があるが、より多くの人に広げていくための周知や取組みが十分でない。</p>
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報の発信について、迅速な情報発信が難しい場合がある。 	<p>不審者情報の提供にあたり、プライバシーへの配慮などの観点から、保護者等へ情報発信の同意確認や関係課との協議に時間を要するため。</p>

今後の取組方針

①防犯意識の啓発

- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発、防犯パネル展の開催などにより、防犯啓発活動の推進を図り、市民の自主防犯意識を高める。
- ・暴力追放運動については、継続的な取り組みとするとともに、さらに、運動を広げていくための効果的な取り組みを検討する。また、若い世代の参加を促すために、周知・広報の様々な方法を検討する。
- ・特殊詐欺等新しい犯罪に対しては、警察と連携した防犯講座やHP等を活用し、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。

②防犯団体との連携強化

- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等との連携、情報交換を促進するとともに、長崎県警察とのより一層の連携を図る。

③子ども安全情報の収集及び発信

- ・子どもの安全確保の重要性から、小・中・高等学校との連携を深め、スムーズな情報収集と適切な情報発信に努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	(事業名) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議事業費負担金 【自治振興課】 (事業目的) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による活動への支援を行う。 (事業概要) ①市民集会の開催 ②広報啓発活動 ③構成団体相互の情報交換と連携強化	実施年度	継続	
		成果指標	暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	
		目標値	7,788 人	1,000 人
		実績値	1,000 人	1,000 人
		達成率	12.8 %	100.0 %
		決算(見込)額	413,864 円	350,854 円
		成果指標及び目標値の説明	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。基準値を7,484人(平成26年度)とし、毎年1%増とする目標値を設定しており、平成30年度は7,788人としている。	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。市民集会及び暴力追放パレードの参加者の前年度実績値1,000人を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 平成30年4月15日に市民集会及び暴力追放パレードを実施した。 ・市民集会参加者数:約1,000人(成果・課題等) 啓発事業の見直しを行い、暴力追放啓発書写コンクール事業を廃止した結果、実績値は大きく減少したが、市民集会には、引き続き多くの参加があったことから、防犯意識の向上が図られたと見料する。 今後も、活動を行うとともに、継続することの重要性を発信し、これらの活動への市民の参加促進に努める必要がある。	(取組実績) 令和元年5月11日に市民集会及び暴力追放パレードを実施した。 ・参加者数:約1,000人(成果・課題等) 市民集会の開催による暴力追放に向けた機運醸成が図られた。 今後も、暴力追放に向けて継続して活動を行うとともに、継続することの重要性を発信し、活動への市民参加促進に努める必要がある。		

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-2 地域防犯活動を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	地域が	「自分たちのまちは、自分たちで守る」という自主防犯活動を行っている。	
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子

令和元年度 of 取組概要

- ①子どもの見守り活動の推進
 ・子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールと情報交換会を実施した。
- ②青少年の非行防止活動の推進
 ・259名の少年補導委員(年間延4,175名)が、子どもの非行防止のため、「愛の一声」を中心とした補導活動に取り組んだ。
 ・非行や犯罪につながる可能性のあるメディア、SNSを起因とした問題等青少年に係る現代的課題を理解し補導活動に活かせるよう、少年補導委員に対し研修会等を実施した。
- ③自主防犯活動への支援
 ・犯罪の抑止に効果が高い自主防犯活動の一つである青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会等への財政的支援を行うことにより、防犯活動の促進に努めた。
 ・青色回転灯防犯パトロール活動団体等の自主防犯団体との連携強化に努め、団体の概要や活動状況等の情報共有を図るとともに、それらの情報を広報誌やホームページで発信した。
 ・公用車による青色回転灯防犯パトロールについて、運用方針や運用マニュアルを定め、庁内に周知するとともに、不審者情報を庁内で共有できるようにし、実施体制の充実を図った。
- ④暴力団等排除の推進
 ・市が実施する補助事業などの情報を警察等の関係団体と共有し、市の事業への暴力団等の排除に努めた。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
子どもを守るネットワークパトロール実施回数	6,099回 (23~26年度平均)	↑ 目標値	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
		↑ 実績値	5,974	6,055	6,856	6,658	
		↑ 達成率	97.9%	99.3%	112.4%	109.1%	
少年補導委員の活動人数	4,979人 (26年度)	↑ 目標値	5,100	5,400	5,700	6,000	6,300
		↑ 実績値	4,379	4,343	4,436	4,175	
		↑ 達成率	85.9%	80.4%	77.8%	69.6%	
青色回転灯防犯パトロール活動団体数	21団体 (26年度)	↑ 目標値	22	22	23	23	24
		↑ 実績値	21	20	20	20.0	
		↑ 達成率	95.5%	90.9%	87.0%	87.0%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールが6,658回、情報交換会が688回実施され、地域における見守り活動が実践された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりに寄与した。
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・259名の少年補導委員(年間延4,175名)が、1,406回の補導活動を行い、4,120名の少年に「愛の一声」をかけ、子どもの非行防止に取り組んだ。 ・ネットや電子メディア、SNS等を起因とした問題等、青少年に係る現代的課題の理解と対応策について、年11回の研修会等を実施することで、補導活動の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の健全育成と非行防止が図られた。
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌やホームページにより、青色回転灯防犯パトロール活動の内容やその効果を発信したことで、地域防犯活動の周知が図られた。 ・新たな青色回転灯防犯パトロール活動団体が組織された。 ・各地区の防犯協会が行うパトロールや防犯啓発活動等を支援し、犯罪の未然防止につながった。 	<p>自主防犯活動が地域に浸透し、犯罪の未然防止につながったことで、地域住民の自主防犯活動が継続的なものとなった。</p>
<p>④暴力団等排除の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が実施する補助事業などについて、県警に暴力団等照会を行い、暴力団等でないことの確認を行った。 	<p>暴力団等排除の推進によって、市が実施する補助事業などへの暴力団等の介入を防いだ。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を行う人の固定化が顕著となっている。 ・子どもに対して目を配るべき要素が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の繋がりが希薄になってきている。 ・近年、子どもの痛ましい事故が増えている。
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年補導委員の活動回数に地域でばらつきがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校補導委員(教員)と一般補導委員との間で活動時間の調整が困難である。
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色回転灯防犯パトロール活動団体については、隊員の確保が難しい。 	<p>高齢化により担い手が不足している。</p>

今後の取組方針

①子どもの見守り活動の推進

- ・引き続き子どもを守るネットワーク活動への支援を行うことで、家庭や地域社会全体で安全・安心なまちをつくるという意識を高め、更に活動を活性化する。
- ・子どもが事故や犯罪に巻き込まれる原因となるものを未然に防ぐため、機会をとらえて子どもを守るネットワークに対し情報提供・注意喚起を行う。

②青少年の非行防止活動の推進

- ・少年補導委員の資質向上を図り、定期補導の充実につなげるため、長崎市少年補導委員協議会の研修会の内容を充実させ、参加者の増加に努める。
- ・学校補導委員の活動を活性化するために、活動可能な体制を検討していく。
- ・問題行動や初発型非行の防止に取り組むため、少年センターにおいて関係機関及び関係団体・店舗等と連携し、情報収集を行うと共に少年補導委員への情報提供や注意喚起、少年補導のポイント等を周知する取組みを推進する。

③自主防犯活動への支援

- ・地域の防犯力の向上を図るため、青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会に対する連携・支援を継続することにより、地域防犯活動の継続・強化など犯罪に強いまちづくりへの取組みを推進する。
- ・新規隊員加入及び新規団体設立を促すために、引き続き、ホームページ等による青色回転灯防犯パトロール活動の効果や実施状況についての広報を行う。
- ・公用車による青色回転灯防犯パトロールについては、車両の整備と職員の育成により活動の拡大を図り、地域防犯活動の充実を図る。

④暴力団排除の推進

- ・暴力団排除条例に基づき、暴力団排除活動を推進し、安全で安心して暮らせる地域社会づくりを推進する。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	(事業名) 子どもを守るネットワーク推進費 【こどもみらい課】 (事業目的) 地域内の団体・組織・個人などが連携し、子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりを実現する。 (事業概要) 子どもを守るネットワーク活動に対する助成を行う。	実施年度	継続	
		成果指標	子どもを守るネットワークパトロール実施回数	
		目標値	6,100 回	6,100 回
		実績値	6,856 回	6,658 回
		達成率	112.4 %	109.1 %
		決算(見込)額	6,397,975 円	6,434,321 円
		成果指標及び目標値の説明	実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。 平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、平成30年度は6,100回を目標値とした。	実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。 平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、令和元年度は6,100回を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	市内68小学校区の子どもの安全を守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。	市内68小学校区の子どもの安全を守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。	
	(成果・課題等)	パトロールが6,856回、情報交換会が731回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。 パトロールの実施回数は、目標値を達成したが、活動を行う人の固定化が進んでいる。また、近年子どもの痛ましい事故が増えており、目を配るべき要素が増えてきている。	パトロールが6,658回、情報交換会が688回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。 パトロールの実施回数は、目標値を達成したが、活動を行う人の固定化が進んでいる。また、近年子どもの痛ましい事故が増えており、目を配るべき要素が増えてきている。	
2	(事業名) 少年センター相談・補導活動費 【こどもみらい課少年センター】 (事業目的) 少年補導委員による街頭補導や相談活動を行い、少年の健全育成と非行防止を図る。 (事業概要) 補導業務の充実、相談業務の充実、環境浄化の推進、情報の収集、提供を行い、関係機関との連携に努める。	実施年度	継続	
		成果指標	少年補導委員の活動延人数	
		目標値	5,700 人	6,000 人
		実績値	4,436 人	4,175 人
		達成率	77.8 %	69.6 %
		決算(見込)額	14,291,196 円	14,182,589 円
		成果指標及び目標値の説明	少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。 令和2年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため平成30年度は5,700人を目標値とした。	少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。 令和2年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため令和元年度は6,000人を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	延4,436人の補導委員が活動し、少年3,983人に声掛けを行った。 新任補導委員に対する事前研修会に37人、夏季・冬季研修会に183人の参加があった。	延4,175人の補導委員が活動し、少年4,120人に声掛けを行った。 新任補導委員に対する事前研修会に17人、夏季・冬季研修会に199人の参加があった。	
	(成果・課題等)	年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。学校補導委員については、少年補導委員との連携・協働を推進し、活動の活性化を図っている。	年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。学校補導委員については、少年補導委員との連携・協働を推進し、活動の活性化を図っている。	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
3	(事業名) 青色回転灯防犯パトロール活動費補助金 【自治振興課】 (事業目的) 青色回転灯防犯パトロール活動団体への支援を行う。 (事業概要) 地域の防犯ボランティア団体が行う青色回転灯を装着した車による防犯パトロール活動に係る経費の一部を支援する。	実施年度	継続	
		成果指標	青色回転灯防犯パトロール活動団体数	
		目標値	23 団体	23 団体
		実績値	20 団体	20 団体
		達成率	87.0 %	87.0 %
		決算(見込)額	558,500 円	540,750 円
		成果指標及び目標値の説明	地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、平成30年度は23団体とした。	地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、令和元年度は23団体とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:14団体 活動延べ日数:2,010日 活動延べ台数:2,234台 (成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。現隊員の高齢化等による団体活動継続の問題も顕在化しており、今後、新たな活動団体を増やしていくこととあわせて取り組んでいく必要がある。	(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:14団体 活動延べ日数:1,965日 活動延べ台数:2,163台 (成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。隊員の高齢化等による団体活動継続の問題が顕在化していることから、新規団体設立や担い手不足の解消につながる広報活動に取り組んでいく必要がある。		